



LIOJ(Language Institute of Japan) は、財) MRA ハウスの教育事業部門として1968年に設立され、今年度で35年目を迎えております。これも皆様のご理解の賜と厚く御礼申し上げます。私共 LIOJ は、生徒の皆さんに生きた英語の習得と異文化への理解を深めていただくようなクラス作りを目指し、語学習得だけにとどまらず、国籍を越えた真のヒューマンリレーションの確立に貢献できる「人づくり」を目的としています。今後も変わらぬ姿勢で続けて参りたいと思っておりますので、宜しくお願い致します。

【コミュニティーコース以外のプログラム】

- 第34回英語教育者のためのサマースクワッド：日本全国の英語教師のための合宿研修講座
既に3900名以上が受講
- 箱根町英会話教育受託事業：町立小学校・中学校にLIOJ教師を派遣、ティームティーチングを実施
- 高校生短期集中講座トレーニングコース【参加単位：学校/個人】：(6月)神奈川県立小田原城内高等学校
(7月)東京女子大学高等部・神奈川県立白山高等学校(8月)青陵中学・高等学校(同校施設使用)
(11月)都立深川高等学校1年生(2003年1月)都立深川高等学校2年生が学校単位で参加
- 海外教育事業交流プログラム 海外奨学制度：アジア地域の英語教師をサマースクワッド受講者として招聘
- 英会話/異文化理解コース教師派遣事業：城山幼稚園に教師を派遣
- ビジネスコミュニケーションプログラム(2週間企業人合宿コース)

2002年度第II期 SPECIAL ACTIVITY

Oct	Eerie Entertainment	: 大人/モーニング&アフタヌーン 30(Wed) & 31(Thu) & 11/2(Sat) 12:15-13:15 ※ホワイト
	"	: 大人/ナイト 30(Wed) & 31(Thu) 20:30-21:00 ※ホワイト
Dec	Christmas Party :	幼児・小学生 10(Tue)-13(Fri)授業時間内 ※教室または別会場 中学生&高校生 14(Sat)16:00-17:30 ※別会場 大人 14(Sat)19:00-20:30 ※別会場
Mar	Marching with Spring :	中学生&高校生* 22(Sat)16:00-17:30 ※別会場
	Dance :	全受講生対象 22(Sat)18:00-19:30 ※別会場



*中学・高校生コースの各期最後のクラスは、合同クラスとなります。年齢の違うお友達や担任以外の講師と触れ合い、いつもと違った環境の中で英語を使っていただきます。

合同クラスは、通常の授業時間と異なりますのでご注意ください。

授業参観について (幼児・小学生のみ)

幼児・小学生コース受講生の保護者を対象に、お子様の授業参観を行っております。参加日時は、2003年1月28日(火)~31日(金)と3月18日(火)~21日(金)の授業時間を予定しております。(週2回授業のあるクラスは、2回目の授業時に行います。)学習の成果をご覧ください。



活動報告—Creativity Night!

10月5日(土)18:00から全受講生を対象にレクリエーション大会(Creativity Night)を開催致しました。当日は、小さいお子様から大人までの受講生とその御家族、計53名が参加してくれました。今回は、今までとは少し趣向を変え、ハロウィーンのお面を作ったり、葉っぱに見立てた色画用紙に用意してもらったプリクラを貼って作った木のポスターなど「芸術の秋」を感じさせるようなクリエイティブなアクティビティーでした。回を追うごとに参加人数も増え、この催しも少しずつ定着して来た様に思います。次回のテーマは、「ダンス」!3月22日(土)18:00スタートを予定しています。ぜひご参加下さい。尚、Creativity Nightの様子を撮った写真を後日掲示致しますので、楽しみに。

英会話 ベラベラへの道

— いつになったら上手になるのか英会話 —

「どうすれば上達するの？」多くの人が抱いているこの疑問に答えようと、外国語である英語をマスターした Young Shin に直撃インタビュー！英語との出会いから彼女が実践した学習法を紹介します。

Young Shin は、なぜ英語を学ぼうと思ったの？英語との出会いって？

「小学生の頃、ちょうど兄や姉が中学生で、彼らが英語の勉強をしているのを見てまず興味を覚えたのが最初かな。英語の持つサウンドが好きで、どんどん英語が大好きになっていったの。」

何歳位の時から英語の勉強を始めたのかしら？

「今では小学3年生位から英語の授業があって全国の半分位の学校には ALT（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）がいるけれど、私が子供の頃は、英語は中学生になってから。でも、通っていた小学校に英語が話せる先生がいたので、他の小学校にはなかった『英会話クラブ』というものがあったの。メンバーにも帰国子女がいたので、先生や友達に教えてもらって練習を始めたわ。11才の時よ。」

中学や高校の授業は、韓国語で受けたの？それとも英語？

「教えてくれるのは韓国人の先生だったので、もちろん授業は全て韓国語よ。日本と同じね。」

授業は、どんな風に進められてたの？

「教科書を読んで訳したり、各課ごとにスキットが載っていたので、それを覚えてみんなの前に出てやってみたり。」

日本と似てるのね。学校の授業以外で、英語の勉強はどんな事をした？例えば、単語を覚えるとか...

「単語！単語は何度も何度も書いて覚えたなー。一つの単語を10回、20回書いて、毎日紙の両面を使って二枚は書いたと思う。あとは、テープを聞いてリスニングのトレーニングをしたり、文法の本を読んだり。そういう本に載っているセンテンスは、繰返し声に出して読んでた。私は、何でも声に出して読んでたの。そうやって高校3年間で文法の本5冊は覚えちゃった。」

学校以外でどこかに習いに行っただけ？

「学校から帰ってくるのが遅かったの、どこにも行ってなかったわ。」

部活？

「いいえ、学校よ。」

どういう事？学校は、何時から何時までなの？

「朝7時30分から夜の9時位までかな。通常の授業は9時から4時位なんだけど、前後に補習クラスがあって、主に復習の授業を受けるの。朝は、7時半には先生が門を閉めてしまうから、全員登校するのよ。夜も4時に授業は一旦終わって、掃除をしたりして又学校で勉強するの。高校1、2年生は6時に終わるけど、3年生は9時位までかな。補習クラスは自習の事もあるけど先生がついて授業をしてくれて、全員受けるものなの。韓国では、私立も公立も全て同じシステムよ。」

ひゃー、本当？それじゃ、塾や英会話スクールに行く時間なんか無いね。特別に英会話の勉強はしなかったの？

「特に会話の勉強と意識していた訳ではないけれど、小学生の時は『英会話クラブ』に入っていて、中学生になって父がオーディオセットを買ってくれたので、テープを一生懸命聞いてたかな。高校では『イングリッシュ・スピーチ・クラブ』に入っていたので、そこで練習をしたのよ。大学では英会話のクラスを取ってたわ。」

自分では、いつ頃から英語が話せるようになったと思う？

「大学に入ってから。小学生の頃からクラブに入っていたりはしたけれど、そこでは学んだのは "How are you?" とか "I'm a girl." みたいな簡単なセンテンスで実際には会話にはなってなかったと思う。中学や高校の時もすごく勉強したけど、実際に使ってみる機会がほとんどなかったの。高校の時に2回くらいかな、外国の人と英語で話したのは、大学では英会話のクラスを取っていたし、教授のアシスタントもしていたから、話す機会はとも多かったと思うわ。使った初めて身について来たって感じ。大学卒業後ニュージーランドに7ヶ月いて、語学学校へ通ったり、旅行をしたりしたの。その7ヶ月で英語力がぐんとアップしたのは自分でも良く分かったわ。英語に限らず言葉でただ文法を覚えるとか単語を覚えるとか、そんな表面的な事だけでは真の意味の習得は難しいと思う。文化だとかその国の事をいろいろ学んでやっと自分のものになって来るんだって今はそう思ってる。」

ズバリ！話せる様になった一番の要因は何だと思いますか？

「小さい時からの積み重ね全ただけで、強いてあげるとすれば、とにかくたくさん繰返し声に出して練習した事。それからニュージーランドで暮らした事。」

やっぱり話せるようになるには、それなりの努力をしなくちゃダメよね。それにしても猛勉強降りには驚いちゃった。私も、もうちょっと頑張ろうかな。今日は、どうもりがとう。
「こちらこそ、どうもありがとう。」

彼女は、大学でも英語を学び続け、国立 Chunnam 大学で英語、及び英文学の学士を取得し、ユタ州の Brigham Young 大学で TESOL（英語を第二言語として教える資格）を取得しました。小さい頃から好きだった英語を続け、ついには指導をするまでになり、これまでに韓国、アメリカ、日本で英語を教えた経験があります。外国語をモノにただでなく、違う国の人に教えるなんて、スゴイ！Young Shin にインタビューして何度か耳にした言葉が「声に出す」「繰返す」でした。彼女は、テキストや参考書を声に出して読んだり、例え話す相手がいなくても自分に向って話してた（つまり独り言）と言っていました。やはり頭で分かっている、話せないものなんですね。言ってみると大切ですね。

いかがでした？『英会話ベラベラへの道』少しは参考になったでしょうか。えっ？ちょっと険しそう？当然です！楽しく話せる様になろうなんて、そんなオイシイ話はありません！！人間努力。でも、同じするのなら努力も楽しい方がいい。そんなアナタは、LLOJ でずうーっと学び続けましょうね。（でも、ただ通ってただけじゃダメですよ。）みなさんの中に「私はコレで上達しました。」というような学習法などをお持ちの方がいましたら、ぜひ教えて下さい。みなさんに御紹介したいと思います。（ついでに英語での失敗談なども募集してまーす。）



10月31日は、ハロウィーンです。仮装をしてお菓子をもらったり、パレードをしたり、パーティーをしたりと楽しいイメージの行事ですが、実は、詳しい事を知らない人も多いのでは？今回は、名前の由来などを紹介します。パーティーで皆を驚かす簡単メニューも教えます。



● 名前の由来

10月31日は万聖節 (All Hallows Day) の前夜祭で、All Hallows Eve と呼ばれていたのですが、それが Halloween と呼ばれるようになりました。万聖節は亡くなった聖人たちを祀るカトリックの祝日で、毎年11月1日に祝われます。これは、紀元前5世紀ごろのケルト民族の暦に関係があります。当時ケルトでは、夏は10月31日で終わることになっていました。その日には Samhain (ソーウェン) と呼ばれるお祭りがあり、ケルトでの新しい年が始まる前日(つまり、大晦日)だったわけで、これがハロウィーンの前形だと考えられています。ただし、ハロウィーンの名前の由来に関しては諸説あるようです。

● オバケの扮装

ケルトでは、この日には、前の年に亡くなった全ての魂がこの世に舞い戻って来て、生きている人間に憑りつくこうとされていた。村人は、10月31日の夜には家の明かりを全部消し、火の気もなくして、死んだ魂たちが寒くて入って来れないようにしました。それだけではなく、出来るだけ恐ろしい鬼のような姿になって、大騒ぎでパレードをし、憑りつく肉体を探している靈魂を怖がらせて近づいて来れないようにしました。これがハロウィーン当日、魔女や悪魔の扮装をする風習の元になったと言われています。



● Trick or Treat (トリック オア トリート)

アメリカで一般に行われている「お菓子をくれないとイタズラしちゃうぞ (trick-or-treat)」の習慣については、アイルランドのケルト人のものではなく、9世紀ヨーロッパの souling という風習から来ていると考えられています。11月2日、万聖節に初期のキリスト教徒たちは村から村へ「魂のケーキ (soul cakes)」を乞いながら歩きました。soul cake とは四角く切ったほしぼどうのパンのことです。差し出す soul cake が多ければ多いほど、亡くなった人々に対して、多くの祈りが捧げられることになっていました。当時は亡くなった人の靈魂はしばらくの間「古聖所 (limbo)」にとどまっていると信じられていて、見ず知らずの人の祈りでも、その魂が天国へ昇る助けになると思われていたからです。これがアメリカに渡り、現在のように、子供たちが家々を回ってお菓子などをねだる風習になったと思われます。



● Jack-o'-Lantern (ジャック=オー=ランタン)

くりぬいたカボチャのちょうちん(Jack-o'-Lantern) の風習は、アイルランドの民話から来たと言われています。

昔、いたずら好きのジャックが、悪魔サタンを騙して木に登らせた上、その木の幹に十字架を彫り付けて、悪魔を木から降りてこれなくしてしまいます。そして、金輪際ジャックに対して悪いことはしない、と約束させて悪魔を逃がしてやります。時が経ち、ジャックは死んで天国へやって来ます。ところが、これまでの悪業のために天国へ入れてもらえませんが、ジャックは仕方なく地獄へ降りてきますが、悪魔を騙したということでここでも門前払いにあいます。ジャックが途方にくれていると、悪魔がやって来て僅かに燃える光を手渡します。ジャックはこの火が消えないようにくり抜いたカブの中におき、そこから光をたよりに、寒い闇の中をさまよひ続けていると伝えられています。アメリカでかぼちゃを使うのは、カブよりも丈夫で整形しやすく日持ちも良いため、こうした習慣がアメリカ風に取り込まれたためだ、と言われています。



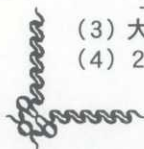
HAUNTED HOUSE

— 「神の手!？」パンチー

* フルーツに混じって手が浮かぶ〜!!

用意するもの：ビニール手袋、フルーツ・ジュース、各種フルーツの実

- (1) ビニール手袋(台所用で可)をよく洗い、つるつるした面を内側にして、中にフルーツ・ジュースを入れます。
- (2) 1の手袋の口を縛って、ジュースがもれないようにし、冷蔵庫の製氷室に置いて、手の形をしたジュースの塊を作ります。
- (3) 大き目のボールに、1で使ったのと同じジュースを入れ、フルーツの実を浮かべます。
- (4) 2で作った手をそのボールに入れて出来上がり。



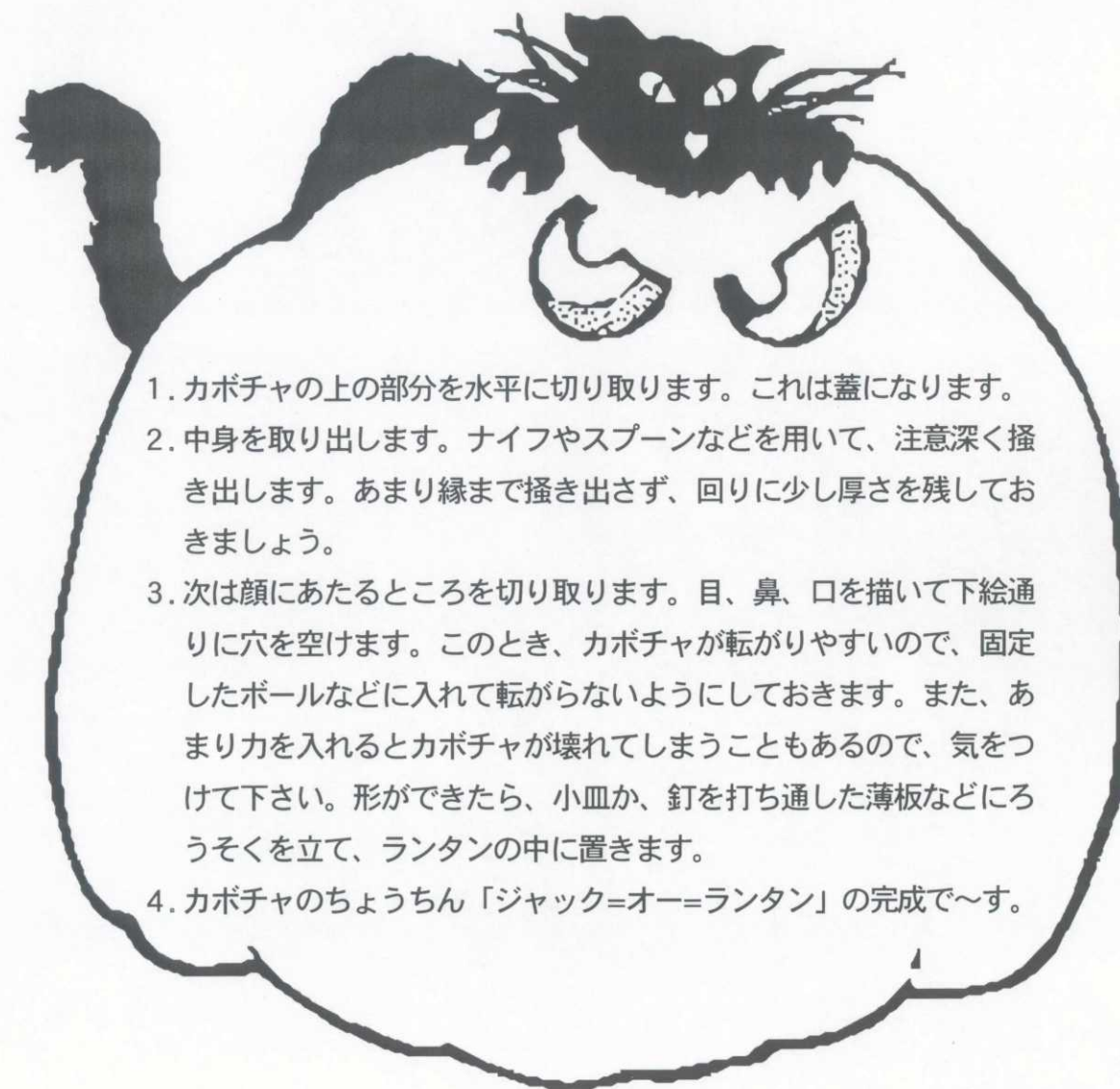
カントン"Jack- o'- Lantern"

かぼちゃのランタンを用意出来ない方は、こちらをどうぞ。
下の絵に色を塗って、切り取って使ってね。



"Jack-o'-Lantern" (カボチャのちょうちん) の作り方

ハロウィーンとなると、決まって登場するのが「ジャック=オー=ランタン」です。これは生のカボチャを使って作ります。(一般に日本で食べられているカボチャではなく、オレンジ色のものです) 米国では、このカボチャを作るための「パンプキン・セット」が売られていますが、大き目のスプーン、ナイフなどがあれば作ることが出来ます。



1. カボチャの上の部分を水平に切り取ります。これは蓋になります。
2. 中身を取り出します。ナイフやスプーンなどを用いて、注意深く掻き出します。あまり縁まで掻き出さず、回りに少し厚さを残しておきましょう。
3. 次は顔にあたる部分を切り取ります。目、鼻、口を描いて下絵通りに穴を開けます。このとき、カボチャが転がりやすいので、固定したボールなどに入れて転がらないようにしておきます。また、あまり力を入れるとカボチャが壊れてしまうこともあるので、気をつけて下さい。形ができたなら、小皿か、釘を打ち通した薄板などにろうそくを立て、ランタンの中に置きます。
4. カボチャのちょうちん「ジャック=オー=ランタン」の完成で～す。

試してみてね



- レッスン中は、ご自身の英会話上達のため、英語のみを使うことを心掛けて下さい。
- 授業には、レッスン開始に間に合う様にお越し下さい。やむを得ぬ理由により遅刻、欠席される場合には、授業開始前までにご連絡下さい。
- LIOJ では、全コース共、各期末に担当教師が受講生の上達の度合いを判定し、これにより次期コースのクラス編成を行います。大人一般コースでは、特に教師からの推薦が無い場合でも、レベル判定のテストを再受験し、相応の実力が付いていると判断されれば、より上級のクラスへ移動が可能です。また、リスニング能力をご自身で確認する目的で、テストのみをご活用いただいても結構です。どんどんチャレンジして下さい。
- LIOJ の授業は、全て教室で行います。

授業に関するご質問は担当教師もしくは、事務局スタッフまでお尋ね下さい。また、ご要望等につきましても出来る限り受講生の声を反映し、より良いクラス作りを目指していこうと考えておりますのでお気軽に相談下さい。

LIOJ FACULTY & STAFF

James Kahny



Jim is from Washington state, USA. He has a B.A. Hons. in political science and German from Western Washington University. He worked as a construction supervisor building school in Benin, West Africa from 1983 to 1985, then taught English for two years in Miyagi prefecture and for one year in Seoul, Korea. He is the director of LIOJ. He is interested in sports, music, travel and politics.

Tracey Cook



TRACEY COOK is from Glasgow, Scotland. She has a PGCE in English and History for Saint Andrew's College of Education, and an M.A. Honours in History from the University of Glasgow. She taught high school English for a year in Scotland, three years in Japan, as well as several months teaching in a private high school in Turkey. Her interests include yoga, reading and travel.

Gabriella Cseh



Gabriella is from Budapest, Hungary. She has a BA in English Language Teaching from Eotvos University, Budapest, and she is in the process of getting her MA in English Literature and Linguistics. She has also studied psychology for two years at Janus Pannonius University, Pecs. Before she came to Japan she had taught English in Hungary for eight years.

Frances Devaney



Frances is from county Longford, Ireland. She has a BA in Humanities from St. Patrick's College of Education, Dublin, a HDipEd from Trinity College, University of Dublin, an MA in International Relations from Dublin City University and a RELSA certificate for teaching English. She has taught English for three years in Akita prefecture and also in Ireland and Qatar. Her interest include playing sports, dance, listening to music and watching movies.

Young Shin Kim



Young-Shin is from Cheongju in South Korea. She has a graduate certificate in TESOL from Brigham Young University, as well as a BA in English Language and Literature from Chungnam National University. She has taught English in Korea, the United States, and Japan, and taught Korean at Brigham Young University.

Diane McCall



Diane is from Edinburgh, Scotland. She has RSA/CTEFLA from Basil Paterson College, Edinburgh and an M.A. in English from the University of Glasgow. She taught ESL in Glasgow for two and a half years and has since taught in Japan for five years, in Hiroshima, Iwate and Chiba. Her interests include cooking, reading and travel.

Stephen Shrader



Stephen is from West Virginia in the United States. He has an M.A. in TESOL from the School for International training. He did his undergraduate work at Washington and Lee University and Rikkyo University, earning a B.A. in East Asian Studies. He has lived in Japan as a student and teacher for five years, and has taught English in Morocco and Japanese in the United States.

Kazumi Masuda



Kazumi is the office manager of LIOJ. Besides overseeing all office operations, she handles financial matters and International Summer Workshop planning. She is also involved in cultural activities which are conducted by Odawara city.

Kazuko Mizukami



Kazuko is responsible for the LIOJ Community Program. She taught Japanese for 10 months in Australia. Her hobby is watching movies.